

大学生が中小企業11社を研究

「課題解決ラボ」始まる

200人参加

兵庫県内の中小企業と大学生の就職マッチングを支援する「Mラボ事業」（神戸新聞社など主催）の中核事業「課題解決ラボ」が本格的にスタートした。

兵庫県の中小企業と大学生の就職マッチングを支援する「Mラボ事業」の中核事業「課題解決ラボ」が本格的にスタートした。



13大学の学生約200人が参加。20チームに分かれて11社の販売戦略や商品開発をテーマに研究し、10月25日に神戸ハーバーランドで成果を発表する。



おかきなどの製造ラインを見学する学生ら＝加古川市平岡町高畑、植垣米菓(撮影・峰大二郎)

「Mラボ」は県内の優良企業を学生に知ってもらい、就職のミスマッチの解消につなげる狙いで、昨年始まった。来年2月末までに企業を紹介する「ひょうご中小企業就活ガイド」の発行、大学への出前講座、合同就職面

接会なども行う。「課題解決ラボ」には、神戸、神戸学院、関西、立命館などの各大学のゼミと、ファミリア(神戸市中央区)、ドンク(同市東灘区)、音羽電機工業(尼崎市)などが参加。3日は武庫川女子大学の学生ら11人が、植垣米菓(神戸市長田区)の加古川工場を見学した。植垣清貴社長は「日本の農業のためにも、国産米、県内産米の使用を増やしたい」と事業方針を説明した。

同大3年の川田恵さん(20)は「次の世代のことまで考えられているお菓子であることを多くの人に知ってもらいたい」と話していた。(石沢菜々子)